Will

TOKUSHIMA
KENSHOKAI COLLEGE OF
HEALTH AND WELFARE



徳島健祥会福祉専門学校 同窓会会報｜ウィル

特 集 ｜ 同窓生ロングインタビュー

2016 MARCH VOL. 9



MESSAGE

徳島健祥会福祉専門学校 創立20周年を迎えて

徳島健祥会福祉専門学校

校 長　武田　英二



1974年3月 徳島大学医学部医学科卒
徳島大学医学部付属病院、高松市民病院、米国インディアナ大学医学部などを経て、1992年より徳島大学医学部教授（病態栄養学）。栄養学科長、徳島大学病院「食と健康増進センター長」、21世紀COE「ストレス制御をめざす栄養科学」拠点リーダー、国立大学法人徳島大学大学院教授（臨床栄養学部門）、同大学教育研究評議員などを歴任。2014年4月 徳島健祥会福祉専門学校 校長に就任。
学位／医学博士（徳島大学）　受賞等／1988年 康楽賞（財団法人康楽会）・1998年 日本ビタミン学会賞・2004年 日本栄養・食糧学会賞

創立20周年を迎え、これまでの理学療法・作業療法・介護福祉・保育福祉学科に加え平成28年から保育学科が新設されます。したがいまして、同窓会と連携した人材の確保、教育・養成、卒後教育がますます重要になっております。専門学校では、高齢者・子どもや障害者など弱い立場の方に向き合う人としての人格を鍛え、座学・実習を通して多くの知識を得て、医療・介護の現場でケアするために知恵を働かせる教育を行っています。

1）海外研修

ストックホルムで、1～5歳を教育しているプレスクールを訪問しましたので紹介いたします。

プレスクール（スウェーデン）の概要

- 入所は親が決めるので、入園生を確保するためには特徴をアピールする必要がある。
- 入園生に対しては、人間として自立させるためのカリキュラムがあり、外部機関が子どもと先生の相互作用、いじめや差別の有無など、教育の質を評価している。
- 教員が教育プログラムを積極的に提案し、責任を持って実践し、それを園長が厳しく評価している。

スイス山岳では、ユングフラウヨッホ、メンヒ、アイガーを完璧に見ることができ、感銘しました。海外研修は、学生との交流を介して外国の介護・保育システムを学習し、雄大な自然を満喫する貴重な機会でした。

2）学校のチャレンジ

（1）インターネット環境をはじめ、教育環境の充実を図るとともに、学校内を禁煙にしました。禁煙の目的は健康教育とともに、運動や会話する機会を増やして勉学意欲を促すものです。

（2）学校と介護現場との連携では、研究とカンファレンスを実施します。研究テーマは「筋肉量評価によるサルコペニア・フレイルティー予防法・治療法開発に関する研究」です。筋肉量を知ることにより、より高度な介護やリハビリテーションに結びつくことが期待されますので、同窓会会員の参加をお待ちしています。

3）学校祭をとおして

本年度のテーマは「築き上げた絆」です。絆とは愛着のことで、親と子、教師と生徒、介護者と高齢者、友達と友達の間で築かれる心の絆です。母乳を与えたときにオキシトシンというホルモンが出ます。オキシトシンは母乳を分泌するホルモンですが、人を愛する、大切にする愛着を育むホルモンです。最近、授乳だけでなく、マッサージ、優しい言葉、人との交流によって分泌が促進されることが明らかになってきました。専門学校および介護現場では、オキシトシンが分泌される教育および介護・リハビリテーションが重要になります。

同窓会の役割としましては、まず（1）卒業生がどこで活躍しているかを把握し、（2）卒業生の連絡網を確立していただくことを期待しています。学校はグループの学術部門として会員の皆様には何でも相談できるプラットホームとして活用していただき、ともに発展できることを期待しております。最後に、これまで専門学校の発展にご尽力いただきました前校長の齋藤史郎先生は平成28年2月19日に逝去されました。ここに謹んでご冥福を祈念申し上げます。





同窓会を交流と学びの場として

健祥会グループ

理事長　中村　太一

1996年 東海大学教養学部生活学科生活経済学課程卒
大学卒業後、社会福祉法人健祥会に就職。同法人及び社会福祉法人緑風会の理事・評議員、社会福祉法人育英福祉会、社会福祉法人青嵐会の理事を務める。2013年 健祥会グループ理事長就任。また、2007年11月より徳島商工会議所副会頭を務める。徳島県労働委員会使用者委員、「ゆかりの徳島」里帰り戦略会議委員、徳島県男女共同参画会議委員、徳島地方最低賃金審議会委員、徳島県防衛協会副会長、NPO法人チャレンジサポーターズ副理事長。徳島県ゲートボール協会会長、公益財団法人日本ゲートボール連合四国地域協議会会長としてゲートボールの普及に携わる。

1996年、介護福祉学科でスタートし、本校は昨年、創設20周年を迎えました。2000年には理学療法・作業療法両学科を、さらに2009年保育福祉学科を増設し、本年4月、2年制の保育学科が創設されます。時代の要請に鑑みながら、こうして成長してこられたのは卒業生はじめ関係諸氏のご支援のおかげであり、心より感謝申し上げます。

超高齢化と人口減少の進む中、社会保障を取り巻く環境は、非常に流動的です。2020年のプライマリーバランス黒字化の目標に向け、社会保障費の伸びの抑制目標が引き続き掲げられ、消費税増税分による社会保障の拡充にも暗雲が立ち込めています。

皆さんの現場でも、昨年は、介護報酬の大幅ダウンと現場のニーズを無視した制度改正により、厳しい運営を迫られてきたことと思います。さらに本年の診療報酬改定では、本体は引き上げられるものの、全体では2回連続の引き下げとなり、リハビリテーション関連の動向も予断を許さない状況です。高齢者の地方移住をめぐる議論が高まっていますが、一方で、地方でのベッド数の削減も打ち出されるなど、ちぐはぐな感は否めません。

そうした状況下ではありますが、昨年政府が打ち出した「新三本の矢」では、三つのうちの二つが社会保障施策となり、経済一辺倒の政策から、大きく転換が図られていることには希望の光を見る思いです。「一億総活躍社会」実現のための緊急対策として「100万人分の保育・介護施設の整備」が掲げられ、介護や保育に大きくスポットがあたってきたといえます。

制度内ビジネスである限り、制度に左右されるのは致し方のないことですが、決して翻弄されることのないよう、常に機敏に柔軟に対応しながら、目の前の患者さん、利用者さんに質の高いサービスを提供することを第一義として頑張っていただきたいと願っています。

本校は20年を一つの節目とし、次の新たなエポックに向かいます。教員も自ら学びながら質のアップを図り、教育態勢を強化します。また、武田校長のもと、研究分野にも果敢に取り組みながら新しい学校のありようを描いていきたいと考えています。そのひとつとして2016年4月、医療法人青嵐会むくの木クリニックを健祥会グループ内に統合し、クリニック・施設・専門学校のトライアングル体制を構築。科学的な数値を意識した介護の実践と研究活動により、新たな価値の創出と研究成果の社会への還元をめざします。

在学生への手厚い教育はもちろん、卒後教育への注力も本校のよき伝統です。同窓会会員諸氏には、本校を専門性の拠り所とし、同窓会を切磋琢磨する場としてどんどん活用していただき、交流と学びをそれぞれのレベルアップにつなげていっていただきたいと念願します。各所での卒業生の皆さんの頑張りを嬉しく、誇らしく思っています。ますますのご活躍を祈念いたします。

追悼

徳島健祥会福祉専門学校前校長 齋藤史郎先生のご逝去にあたり、11年の長きにわたって本校を導き、未来への礎を築いてくださったご功績にこころよりの敬意と感謝を捧げ、ご冥福をお祈りいたします。

CONTENTS

MESSAGE

徳島健祥会福祉専門学校
創立20周年を迎えて
徳島健祥会福祉専門学校　校長　武田　英二　2

同窓会を交流と学びの場として
健祥会グループ　理事長　中村　太一　3

ロングインタビュー

「作業することは生活そのものだから
この仕事に誇りと喜びを感じながら」
徳島健祥会福祉専門学校同窓会　副会長　高田　将輝　5

同窓会総会

同窓会報告　8

記念講演
「ヒトの行動の謎めいた決定因
～無意識からの脅威のコントロール～」
鳴門教育大学予防教育科学センター所長
鳴門教育大学大学院　山崎　勝之　教授　9

4学科講習会

介護の魅力を語り合おう
長寿の里、安心・安全の高齢者住宅春水
介護福祉学科1期生　藤原　慶治　さん
ヘルパーステーションまんなか
介護福祉学科5期生　笹岡　奈美　さん
特別養護老人ホーム健祥会エンリケ
介護福祉学科15期生　リベラ・クリストファー・ソンコ　さん　10

幼児期に育つ大切な力とは？
鳴門教育大学付属幼稚園園長　佐々木　晃　先生

大腿骨頸部骨折・転子部骨折について
徳島赤十字病院
理学療法学科1期生　嶋田　悦尚　さん

ニューロリハビリテーションについて
徳島健祥会福祉専門学校
作業療法学科主任　奥野　剛史　先生

＋UPDATE　それぞれの現場で頑張る4学科卒業生近況報告　12

すべての出会いに感謝して
㈱旭木エケアサービス事業部
介護福祉学科3期生　南　健司　さん

子どもと共に成長しながら
青嵐保育園
保育福祉学科3期生　尾島　賢志　さん

卒業から12年、
まだまだ研鑽の日々
㈲成悠会　老人保健施設ゆうゆう荘
理学療法学科1期生　仁田　裕也　さん

生きがいづくりの一助になりたい
㈱翼進会　東部クリック通所リハビリテーション
作業療法学科1期生　福田　章代　さん

各学科同窓会勉強会＆特別講義　14

NEWS

NEW FACE　新教員紹介　15
編集後記



Will

TOKUSHIMA KENSHOKAI COLLEGE OF HEALTH AND WELFARE

［ウィル：意志］

2016 MARCH VOL.9

ロングインタビュー

作業することは生活そのものだから この仕事に誇りと喜びを感じながら

徳島健祥会福祉専門学校同窓会 副会長　高田 将輝



光と緑にあふれるリハビリフロアで

眉山の麓、古くからの住宅街の一角に、その病院はある。医療法人栄寿会 天満病院。糖尿病教育入院やリハビリテーションを得意とし、地域のかかりつけ医を任じる慢性期病院だ。約束の人を訪ねると、3階のリハビリテーションのフロアへと案内される。エレベーターを降りた先、明るい廊下は微笑ましいディスプレイに溢れ、窓いっぱいに眉山の緑が広がる。

なんだか気持ちの明るくなる、そんなリハビリの場。発達障害の子どもたちのリハビリも担っているとのことで、小さな子どもたちが走り回り、笑いさんざめく。3階がすべてリハビリのためのフロアであり、この病院の注力ぶりが窺える。

高田 将輝　1985年生まれ　30歳

機能訓練室にその人はいた。高田将輝さん。作業療法士。阿波市土成町生まれ、徳島商業高校を経て、2004年、徳島健祥会福祉専門学校作業療法学科へ。5期生として学び、国家資格を取得。2007年卒業と同時に、天満病院初の作業療法士として就職し、今に至る。プロとして今年10年目、何を思い、何をめざしてきたかを問うた。

なぜ作業療法士という道へ？

20年ほど前、まだ高田が幼い頃、同居していた祖父が脳卒中を患い、右半身が不自由になった。頑固一徹な祖父は周囲からリハビリを勧められても、一向に応じようとせず、不自由を抱えて生きることになる。祖父はもちろん、家族にしてもリハビリテーションの重要性など知る由もない、まだそんな時代だった。

リハビリテーション医療における理学療法、作業療法などが日本に導入されたのが1960年代。5年後、1965年、理学療法士及び作業療法士法の施行により、理学療法士・作業療法士がリハビリを担う技術職として位置付けられ、少しずつその概念も普及していくことになる。以来、アメリカを手本に知識・技術を学び、日本らしさも加味しながら、高齢化の進展とともに進歩を重ねてきた。

2003年、高校3年生の高田は自分の将来を探すにあたり、将来有望な職種ということでリハビリ職に注目。理学療法士・作業療法士は名前こそ知られるようになっていたが、まだまだ認知度は低く、進路相談の教師さえ知識に乏しい中、作業療法の何たるかを自分なりに学び、高齢化のさらにすすむ社会にあっての意義を知ることとなる。

「これからこの職業はとても大切になるだろうと思いました。下衆な言い方をすれば絶対食いっぱぐれがないゾと。そしてそれだけじゃなく、もしあのとき祖父がリハビリを受けていたら、今とは比較にならないくらいQOLの高い生活を送れていただろうに、という悔恨の念に襲われ、今からでも祖父をこの手で少しでもよくしてあげたいと考えました」。

「いまでこそ大学にもリハビリテーション学科がありますが、当時は理学療法や作業療法を学べるところは本当に限られていました。徳島健祥会福祉専門学校も介護福祉学科で創設した4年後、2000年に理学作業が増設されていますから、やはり中村博彦創始者の先見の明と行動力はすごかったんだなと思います。とにかく、そんな経緯で、作業療法学科に5期生として入学し、国家資格を取得しました」。

同窓会副会長　高田将輝 さん

「作業することは生活そのものだから この仕事に誇りと喜びを感じながら」



なぜ天満病院を選んだの？

「高齢者、障がい者、病後、様々なリハビリテーションがありますが、僕は病院でのリハビリを志向し、さらに一から自分の作業療法を実践していきたいと思い、作業療法士のいない現場を探しました。ちょうどうまい具合に、天満病院が作業療法部門を立ち上げるタイミングだったので、ここだとばかりに就職しました。学校の非常勤講師だった理学療法士の鶯春男先生が当時天満病院に勤務していらしたこともあり、縁を感じてお世話になることになりました。作業療法士が僕一人という状況には正直不安もありましたし、試行錯誤の日々でした。だから最初の頃は毎日のように学校に電話して、先生方に相談してましたね。リハビリ部門の上司にも当然、報告・相談はするんですが、やはり3年間ずっと教わってきた先生方は、卒業直後の僕にはいちばん身近で頼りになる存在でしたから。本当に母校がいつまでもサポートしてくれていると感じ、ありがたかったです。この風潮は今も変わっていないようで、徳島健祥会福祉専門学校の自慢のひとつじゃないでしょうか」

プロフェッショナルとしての信念は？

「今、国の方針が在宅復帰重視へと大きくシフトし、在宅復帰率が施設基準にも関わってくるようになりました。地域包括ケア病棟では、急性期治療を終えた方や自宅・施設で療養中に体調を崩された方を受け入れ、60日以内の在宅復帰めざして、治療とリハビリテーションを提供します。そういう意味では制度のしばりはあるのですが、しかし制度がどうあろうと、大方の患者さんの願いは家に帰ることなんです。なので、僕のプロフェッショナルとしての目標は『入院患者さんを全員家に帰す』こと。これは現場に初めて出たときから、今もこれからも、変わることはありません。だから常に、そのために何が必要かを考えながら、『その人らしい生活』を送るという当たり前のことをサポートするために、一人ひとりにアプローチし、治療に臨んでいます。考えてみると身のすくむほど怖い話なんですが、患者さんはまだまだ未熟な僕を先生と呼んで頼りにしてくれます。患者さんにとっては未熟であろうとベテランであろうと、その人を信頼して身をゆだねるしかない。だから経験が浅いなんていいわけはできないわけです。僕こそがその人にとっての最良の作業療法を提供できるように、しっかり一人ひとりに向き合い、もちろん経験も積みながら、日々学び、知識や技術をどんどん吸収していきたいです」

プロとしておじいちゃんにどう関わった？

「リハビリは、発症後3ヶ月から半年くらいの間にスタートすると高い効果が得られるんです。祖父の場合はもうすでに機能回復の可能性はなかったのですが、とにかくできるだけ現状維持して、できるだけ長く自分でご飯を食べ、着替えをし、家で暮らせるようにということを考え、サポートし



医療法人 栄寿会　天満病院
〒770-0047　徳島市名東町 1-91

診療科目：内科・糖尿病内科・呼吸器科・
消化器科・リハビリテーション科・小児科

入院：定員 55 名

ました。自助具を使って食事することをアドバイスして、使いやすいものを選んであげたり、また、僕がリハビリ職になったことで、頭から嫌がっていたデイサービスにも目を向けてくれるようになり、通うようになったのは嬉しかったですね」

「患者さんを家に帰す」という目標は達成できている？

「全員という目標にはまだまだ遠いですが、たくさんの方に元気になってご自宅に帰っていただいています。嬉しかったいちばんの思い出は、廃用症候群で寝たきり状態の要介護5の方のこと。ご本人にもご家族にも家に帰りたいという強い思いがあったのですが、当初は正直無理なんじゃないかなと思っていました。でも僕を信頼して頼ってくれている患者さんを前に、僕が諦めるわけにはいかない。だから僕も頑張ったし、ご本人もハードなリハビリを頑張った。結果、なんと2ヶ月の入院の間に歩けるようになったんです。嬉しくて感激して、リハビリの力をとても感じたものでした。その方には『絶対頑張る』という意思があった、でもリハビリなんてやりたくない人ももちろんいます。そういう人をやる気にさせるのがセラピストとしての腕の見せ所。嫌だという気持ちの向こう側にある思い、一人ひとり違う思いを見極めることが大切です。しかも患者さんはほとんどの方が年長者であり人生の先輩ですから、その方々に尊敬の気持ちを持ちつつ、知識や技術の前に人として向き合うことで、心を開いていただけると信じて頑張っています。自分の親だったらという気持ちをいつも持つようにもしています。

また、一次急性期病院からリハビリ目的で転院してこられる方も増えてきて、医療機関からも信頼を得てきていることがとても嬉しいですね。

一方で、一進一退を繰り返しながら亡くなる方もいらっしゃいます。初めて自分の患者さんの死に直面したときは本当に辛かったです。もっとしてあげられることがあったんじゃないか、こうもできたんじゃないかと悔やみました。でも、どんなに悲しくても、感情を絶対に顔に出してはいけない、僕にはたくさんの患者さんがいるんだからと・・・僕は医者ではないのだから、粛々と患者さんのためのリハをするだけなんだと・・・へこんでる自分に言い聞かせながらけじめをつけながら乗り越えてきました」



この仕事の喜びは？ めざすものは？

「作業することは生活そのものです。それを支える仕事に携われることに誇りと喜びを感じながら頑張っています。病院では次々に新しい患者さんに向き合いますし、作業療法に決まりきったマニュアルはありませんから、日々新しいことの連続です。また、他の職種との連携によるチームケアの面もあります。試行錯誤とチャレンジの繰り返しなので毎日が新鮮でやりがいにあふれています。

直近の目標は、次の世代のスタッフに働きやすい環境をつくること。僕も先輩の背中を見て、学びながら成長してきたように、彼らに背中を見られる立場であることを常に自覚しつつ行動し、彼らにめざしてもらえるような存在になることですね」

インタビューを終えて

高田は大きな明るい声で患者さんに声をかけながら、リハビリ室へ戻っていった。窓に眉山の緑が広がる明るいリハビリ室では幾人もの患者さんが施術を受けている。今の不自由を悔やむ気持ちやリハビリを大変だと嘆く気持ちなどそこには微塵も感じられない。そこには、高田をはじめとするスタッフと患者さんとの信頼関係がつくりだす「希望」があふれているかのようだ。

20年の時を経て、さらに深くつながりゆこう!

同窓会総会 2015

2015/11/03(TUE)
グランドパレス徳島

同窓会報告

しっかりした理念と専門性を持って

平成27年度徳島健祥会福祉専門学校同窓会が、2015年11月3日（火）、学校長武田英二先生ならびに健祥会グループ中村太一理事長出席のもと、グランドパレス徳島にて開催されました。77名の同窓生の議事審議を経て、滞りなく総会を終えた後、講演会、学科毎の講習会、懇親会を開催し、学びと交流のひとときを有意義に過ごしていただきました。

2014年の診療報酬改定、2015年の介護報酬改定、いずれも厳しい内容となりましたが、われわれはしっかりした理念と専門性を持って頑張らねばなりません。また、子ども子育て支援制度では保育所の緊急整備や保育の質の確保、保育士の処遇改善などが掲げられており、いずれの分野も質と専門性の向上が不可欠です。同窓生が集い、現状について語り合う場として同窓会をしっかり活用してください。本会が会員諸氏にとって意義ある場となるよう、いろんな意見や要望をいただけることを期待します。

同窓会会長　藤原慶治（介護福祉学科1期生）



写真右から健祥会グループ理事長中村太一、徳島健祥会福祉専門学校校長武田英二、徳島健祥会福祉専門学校同窓会会長藤原慶治

平成27年度同窓会役員

平成27年度徳島健祥会福祉専門学校同窓会役員

会長	藤原　慶治	（介護福祉学科1期）
副会長	池村　健	（理学療法学科3期）
	高田　将輝	（作業療法学科5期）
	武田　英二	（校長）
幹事	長谷部有哉	（作業療法学科5期）
	竹内　大介	（理学療法学科1期）
	乾　静香	（介護福祉学科14期）
	多田　裕介	（保育福祉学科1期）
	渡部　寛生	（理学療法学科11期）
	武市　薫	（作業療法学科9期）
会計	加藤　志帆	（理学療法学科5期）
	濱田　哉美	（介護福祉学科16期）
監事	石井　嘉一	（介護福祉学科4期）
	元島　直美	（作業療法学科4期）
	大前　博司	（作業療法学科9期）
	荒岡　優	（介護福祉学科14期）

※幹事の多田薫さんが武市薫さんにお名前が変わりました。

総会議案

総会では下記の議案が上程され、すべてが滞りなく承認されました。

平成27年度
徳島健祥会福祉専門学校 同窓会総会 議案

- 平成26年度 事業報告
- 平成26年度 会計報告
- 平成27年度 事業計画案
- 平成27年度 会計予算案
- 役員紹介





懇親会 PHOTO GALLERY！

楽しく盛り上がった懇親会の様子を紙面でお楽しみください。そして、今年集えなかった方は、次回ぜひ！

同窓会総会記念講演

「ヒトの行動の謎めいた決定因 ～無意識からの脅威のコントロール～」

鳴門教育大学予防教育科学センター所長・鳴門教育大学大学院　山崎 勝之 教授



心や体の問題を抱える子どもの増加を防ぐ「予防教育」の開発と実践的応用に取り組む鳴門教育大学予防教育科学センター所長・鳴門教育大学大学院 山崎 勝之教授が、「ヒトの行動の謎めいた決定因～無意識からの脅威のコントロール～」と題して、意識と無意識の関係、性格形成のプロセスなどについて語ってくださいました。



山崎 勝之教授

私たちの営みはその9割以上が無意識下で行われていると言われているそうです。視覚も無意識の支配下にあり、それゆえに人は見たとおりには見ないこと、また意思が発生する以前に行動が決定されることなど、興味深い実験をたくさん紹介しながら想像を超える無意識の力を示してくださいました。

山崎教授によると、子どもの性格は誕生から2年でほぼ決定され、他人を信頼する心、自分を信頼する心、内からのやる気が普遍の黄金律として性格を形づくっていくそうです。泣くという「行動」、母乳をもらって満足するという「感情」、泣くと来てくれることを知る「認知」が性格を形成し、無条件の愛が内からのやる気を育てるといいます。泣けば生理的欲求が満たされることで、強固な自己信頼心が形成され、母という存在への信頼が他者信頼心をつくるのです。

そして、意識の前の気付きが情動であり、それを意識レベルに上げてきて、記憶化することが学習だとのこと。情動と感情を喚起させる中で学ぶことができれば、最高の効率で身につけることができる・・・つまり「子どもはあそびの中で学ぶ」ものだからこそ授業を喜びにしなければならないのだそうです。

●抗しがたい無意識の力の凄さを知り、人の行動が知らないところで成り立っていることを頭で理解しよう

●意識の力を最大限活用し、無意識と行動の連動を適応化することにより、ゆがみのない意識機能を活用し、生活の主体となろう

とのまとめをくださいました。

こうした理論を背景に新しい子どもの学び・人間の学びを構成しようというのが「いのちと友情の学校予防教育」であり、徳島発で現在全国8府県のモデル校で展開されているそうです。

保育の現場にとっても学ぶべきことが多いお話でしたが、講演のあとは高齢者介護・医療の立場からの質問も相次ぎました。

「高齢者の徘徊による転倒を防ぐために教育的にできることは？」の問いに、教授は守備範囲外としながらも、「無意識がすべてのベースであるがコントロールを失うと非常に扱いにくい行動が起こるので、意識の機能を充実させていくことが必要。しかし、専門家もまだそのためのプログラムを持ち合わせていないのが現状」との答えを、また「感情と情動の中での教育は高齢者にも適応できるか」との問いかけに、「人の営みの発現のメカニズムは発達段階にかかわらず同じである。これをいかに効率良く動かすか、プランするかが教育の課題であり、今後医療の現場でも活かしていけると期待している」、また「無意識下から意識下への適正化について、繰り返しの意義は？」に対しては、「すべての教育に繰り返しは重要であるが、限度を超えるとメカニズムが崩れてしまう、バリエーションを変えることでメカニズムを維持しつつ繰り返すことが教育・学習の最大ポイントである」と結びました。

同窓会4学科講習会

現場からの貴重な報告に耳を傾けて

■介護福祉学科

介護の魅力を語り合おう

「介護の魅力を語り合おう！」をテーマに同窓生3名の方が、介護の道を志してから現在に至るまでの経験の中で実感した介護の魅力と今後の展望について、パネルディスカッション形式で語り合いました。

それぞれにとっての「介護のやりがい」とは・・・。

言葉や文化の壁、介護に対するイメージに苦悩しながらも、一人の利用者様との出会いとその死を通して掴んだ思い～「利用者様とふれあい、相手を思いやる言葉を交わしながら、その人の人生のフィナーレをともに生きることが介護の喜び」 ソンコ氏

一度介護現場から離れ、再び戻るまでの葛藤の中、いつも持ち続けてきた思い～「人と向き合うということは、互いに同じ方向を向いて生活していくことでありそれこそが介護のやりがい」 笹岡氏

同一法人内で様々な事業所を経験し、施設長までキャリアアップしていく中、多忙な業務、人間関係の難しさを乗り越えてきた経験から得たやりがい～「一人ひとりの利用者様の言葉に耳を傾け、その本意に応えることで、お互いの満足が得られ、信頼関係が構築されること」 藤原氏

幾多の困難を乗り越え、活躍されている3名のパネラーの体験談、介護観をうかがい、介護の未来に思いを馳せながら、「明日」へのやる気と勇気をいただいた講習会でした。

記／松田 圭司（介護福祉学科 主任）



写真右から

パネラー **藤原 慶治** さん
介護福祉学科1期生
長寿の里、安心・安全の高齢者住宅春水

パネラー **笹岡 奈美** さん
介護福祉学科5期生
ヘルパーステーションまんなか

パネラー **ﾘﾍﾞﾗ・ｸﾘｽﾄﾌｧｰ・ｿﾝｺ** さん
介護福祉学科15期生
特別養護老人ホーム健祥会エンリケ

■保育福祉学科

幼児期に育つ大切な力とは？



講師 **佐々木 晃** 先生
鳴門教育大学附属幼稚園 園長

人間の能力は大きく認知能力と非認知能力に区別できるが、「非認知能力」は幼児期にこそ育まれるべきなのだと、ノーベル経済学賞受賞者 ジェームス・ヘックマン教授の研究は教えています。日本では、学習塾での入試教育、知能指数（IQ）や学力テストの成績など、いわば「読み・書き・そろばん」的な物差し＝認知能力で子どもの可能性を図ろうとする傾向が強いようですが、「真面目さ、粘り強さ、自制心、忍耐力、気概、首尾一貫性」といった、人間性の涵養に繋がること＝非認知能力に関しては、就学前の教育こそが重要だとのことです。つまりこれらは「幼児期に育つ大切な力」なのです。

また、就学前教育の祖といわれるフレーベルは、「子どもは空っぽにあらず・優しく支えながら育てよ・個性を生かすことこそが遊び」という考え方のもと、子どものいいところを伸ばし、良くないところを修正するのが幼児教育だと教えています。

二人の先達を紹介しつつ、佐々木先生からは、「子どもが好きだから」「喜んでほしいから」という向き合い方も大切であるが、保育者が自らの保育、教育について根拠をもって説明できるように専門性を磨きましょうというアドバイスをいただきました。根拠になるのは、子どもの発達。幼児自らが手がけて作る環境や願いを込めて作る環境、幼児期にふさわしい体験ができる時間や空間、発達の理論をふまえて楽しむ保育実践など、様々な動画を見ながら、発達の根拠についてユニークにわかりやすくお話いただきました。

毎日の保育がマンネリズムに陥らないために、自分の保育の強み弱みを分析し、苦手なところは見つめ直していく・・・今回の講演がそんな機会になったらいいなと思います。

記／大西 菜々（保育福祉学科 2期生）



同窓会総会 2015

■理学療法学科

大腿骨頸部骨折・転子部骨折について



講師 **嶋田 悦尚** さん

徳島赤十字病院
理学療法学科1期生

診療ガイドラインにおいて、大腿骨頸部骨折・転子部骨折の患者は、現在の20万人台から2040年には30万人台へと増えることが予想されています。つまり、理学療法士は今後さらにこの疾患に向き合う場面が増えることから、講演のテーマとして選びました。

大腿骨頸部骨折・転子部骨折の手術においては内挿物が進化するとともに、新たなエビデンスが示されており、術後の早期離床が図られるようになってきました。私たちにとっても、早期離床に合わせた状態把握や理学療法の提供を進めること、リスクや合併症に対する知識を備えることが重要になっています。

理学療法士の仕事は、患者様の希望に沿って機能回復（筋力増強、関節可動域改善、疼痛軽減）や能力回復（トイレ動作、入浴動作などの日常生活活動）を援助したり、機能回復で補えない場合は、環境や補助具などで代償を行い、患者様の希望をできる限り叶えることです。

例えば、自分でトイレで排泄できること、これは非常に大切なことです。今、あなたにオムツを履いてもらった上で「オムツに排泄してください」と言われたとして、あなたはそのままオムツに排泄できますか？おそらくできる人はいないと思います。患者様も同じです。でももし、患者様がオムツにすることを余儀なくされ、さらにそれに慣れてしまったら、自尊心が失われ、認知症が進行しやすいと言われています。

「早くトイレに自分で行けるようになりたい」「早く歩けるようになりたい」「家に帰りたい」という患者様の希望を叶えられるように、徳島健祥会福祉専門学校という学び舎で得た知識を土台とし、新しい知識をどんどん得ながら、患者様にとってより良い理学療法が提供できるように努めていきたいと思います。



■作業療法学科

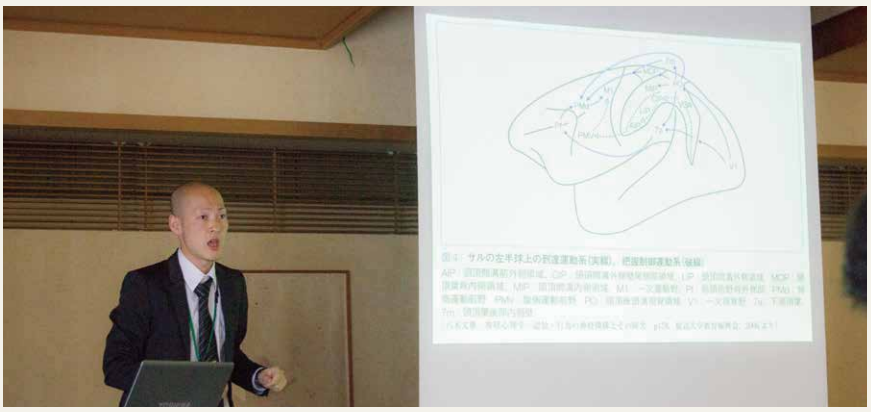
ニューロリハビリテーションについて



講師 **奥野 剛史** 先生

徳島健祥会福祉専門学校
作業療法学科 主任

現在、日本において脳血管疾患に罹患する患者は100万人を超えており、中枢神経系に対するリハビリテーションの社会的な役割は増すばかりです。リハビリを提供する際には医師は明確な医学的根拠を患者に示すことが必要であり、その責任は他のコ・メディカルにおいても同様です。私は、作業療法における evidence とは「なぜその活動をするのかに始まり、その活動をすることによって心身機能はどうなるのかという結果に至るまでのプロセスを科学的に説明できること」と捉えています。そこで今回の講義では、新しい手段を提案するのではなく、最新の神経生理学的な考えを作業療法の根拠として再考察し、新たな考え方として提案させていただきました。これは、言い換えれば「neuroscience based rehabilitation」と言えるかもしれません。機能的MRIに代表される非侵襲脳機能イメージングの進歩は、脳機能に関する知見の進歩に繋がり、多くの研究に生かされていますが、そこで得られた成果を患者の回復に繋げるためには、脳科学を臨床に応用できるだけの両分野の理解と知識が必要です。そのため私は教育者として知識と根拠を示し、社会に貢献できる作業療法士を育てることで、ひとりでも多くの患者が救われるように努めていきたいと考えています。





すべての出会いに感謝して

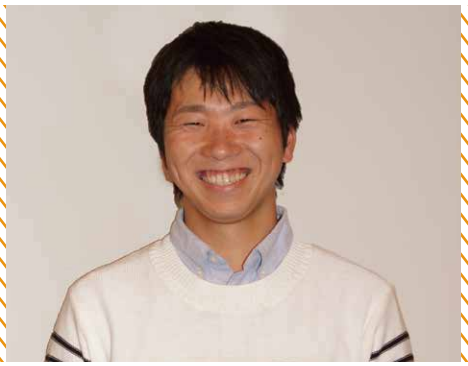
南 健司 さん　介護福祉学科３期生

勤務先　株式会社 旭木工
ケアサービス事業部

人と出会う喜びを感じながら仕事に励む毎日ですが、今の私のすべての始まりは健祥会との出会いであったと思います。まず専門学校。入学の時から現在もずっとお世話になっている尊敬する恩師との出会いに心から感謝しています。そして就職。今の職場にお世話になる前、健祥会グループの介護職員として３年間、デイサービス、配食サービス、訪問入浴など様々な職務を経験させていただきました。当時の施設長が現在の中村太一理事長であり、仕事のノウハウ、社会人としての心得や立ち居振る舞い、人間としてのありよう、何もかもを教育していただきました。
現在、私は、福祉用具専門相談員として居宅介護支援事業所や一般家庭に出向き、ケアマネジャーや利用者に福祉用具や住宅改修工事の提案をしています。いかに相手に信頼してもらえるかが大事ですから、常にスピード対応で、連絡・報告を怠らず、今できることを後回しにしないスタイルを心がけています。現場に出るとケアマネジャーやセラピストの方が同窓生だったりすることもあり、日頃から嬉しいつながりを感じながら仕事をしています。
福祉用具の専門職として12年目、職場の環境も良く信頼できる上司や頼もしい部下のおかげで2014年６月に淡路事業所の開設に管理者として携わることができました。未知の地域でのゼロからのスタートに不安もありましたが、それ以上に、新しいチャレンジへの楽しみの方が大きかったように思います。
人生で何より大切なのが人との出会い。新しい出会いは新しい自分の発見にもつながります。ケアマネジャーとの出会い、利用者さんとの出会い、地域の方との出会い、同窓生との出会い、すべての出会いに感謝し、少しでも皆様のお役に立てるよう、そして人間としてもっともっと成長できるよう頑張っていきたいと思います。最後になりましたが、中村太一理事長はじめ諸先生方、同窓生の皆様方、今後ともご指導ご鞭撻いただけますようよろしくお願いいたします。



＋UPDATE
それぞれの現場で頑張る 4学科卒業生近況報告



子どもと共に成長しながら

尾島 賢志 さん　保育福祉学科３期生

勤務先　社会福祉法人 青嵐会
青嵐保育園

青嵐保育園に保育士として勤務し、あっという間に２年が過ぎました。初年度は２歳児、次は持ち上がりでそのまま３歳児を担任しました。最初は毎日の生活や活動を把握することに追われていましたが、少し余裕のできてきた今は、園長先生はじめ、主任や先輩の先生方から助言をいただきながら、子ども一人ひとりの良いところを伸ばしていけるような保育を目標に頑張っています。
３歳児クラスは踊りなどの表現活動が好きで、場所を問わず楽しんでいます。大きな舞台の運動会でも一人ひとり笑顔で、堂々と表現することができました。運動会当日に向けて、衣装を工夫したり、踊りの振り付けや隊列を試行錯誤したりしながら、子どもと一緒に作り上げていく運動会に、達成感とやりがいを感じました。
保育士としてはまだまだ未熟で、毎日の保育の中で悩むことも多くありますが、先輩の先生方を見て学び、丁寧な保育を心がけながら、子ども一人ひとりに寄り添い、共感できる保育者になりたいと思います。そのためには子どもとの関わり方や環境構成、保育計画や行事計画など、目標をもって積極的に計画・行動しなければと感じています。
徳島健祥会福祉専門学校に入学したからこそ、自分が夢としていた「保育園の先生」になることができ、青嵐保育園の子どもたちに出会うことができ、自分を成長させてくれる諸先生方にもめぐり会うことができました。すべての人への感謝の気持ちを忘れず、１年また１年努力を積み重ね、子どもと共に成長していきたいと思います。





卒業から12年、まだまだ研鑽の日々

仁田 裕也 さん　理学療法学科１期生

勤務先　医療法人 成悠会
老人保健施設 ゆうゆう荘

理学療法士とは、ケガや病気などで身体に障害のある人や障害の発生が予測される人に対して、基本動作能力（座る、立つ、歩くなど）の回復や維持、および障害の悪化の予防を目的に、運動療法や物理療法（温熱、電気などの物理的手段を治療目的に利用するもの）などを用いて、自立した日常生活が送れるよう支援する医学的リハビリテーションの専門職です。
初めて理学療法士という職業に向き合い、その学問を真剣に志そうとした日のことを思い出します。学生時代の私と言えば、医療従事者をめざす者とは思えないほど不真面目で、いわゆる「チャラチャラした学生」でした。何とか試験さえ通ればいいと常に思っていた私が、心を入れ替える転機になったのが臨床実習でした。患者様を支援していくということへの自覚と責任の無さを痛感し、恐ろしくなったのを憶えています。
それを転機に頑張り、卒業し、国家資格を得て、今年度13年目を迎えます。臨床実習以降、専門職たるに相応しい人間になりたいという強い思いで、自己研鑽に努め日々精進してきました。人前で話すことの苦手な恥ずかしがり屋の私が、昨年度の同窓会で各学科講習会の司会をさせていただいたのも、「患者様のため」の自己研鑽のひとつであり、機会を与えて下さった諸先生方に感謝しています。

子曰く、
吾れ十有五にして学を志ざす。
三十にして立つ。
四十にして惑わず。
五十にして天命を知る。
六十にして耳従う。
七十にして心の欲する所に従って、矩を踰えず。

孔子によれば、私はまだ「学問に対する自分なりの基礎を確立する」時期にあります。理学療法学科講習会の講師をつとめた嶋田悦尚先生も専門学校の竹内大介先生も、学生時代からの親友であり、ともに「立つ」仲間たちです。時には教えを乞い、時には良きライバルとして、これからもお互いを高め合っていけたらと思います。



生きがいづくりの一助になりたい

福田 章代 さん　作業療法学科１期生

勤務先　医療法人奨進会
東部クリック通所リハビリテーション

作業療法学科の１期生として本校を卒業してから早いもので、12年が過ぎました。私は沖縄出身で卒業後は地元で就職したため、同窓会にも出席できず、なかなか健祥会の皆様に近況をご報告できる機会もなかったので、今回この様な機会を与えていただいたことに心から感謝申し上げます。
徳島で過ごした３年間は、学校に行くのが楽しみな素晴らしい日々でした。長期実習や国家試験など大変なこともありましたが、クラスメイトとお互いに励まし合いながら、つらいときも頑張って乗り越えてくることができました。
卒業後は沖縄で特別養護老人ホームに就職し、翌年、在学中からお付き合いしていた理学療法学科１期生の福田聡史と結婚。現在は一男二女の母親として、育児と仕事の両立に日々奮闘しています。
今の職場はクリニック付属の通所リハビリテーション。パートとして勤務し、今年6年目を迎えます。小規模ではありますが、ＰＴ・ＯＴ・ＳＴが勤務しており、それぞれの専門分野での知識や情報を共有し、多面的に利用者様を捉え、解決策を検討することができます。チームケアの大切さを実感しつつ、その中で作業療法士としての役割をどう果たしていくべきか、今でも悩むことは多いです。でも悩んだときこそ焦らずに、利用者様の声、心の声に耳を傾けます。そして、あたたかな信頼関係の中で、利用者様に寄り添い、価値観を共有し、個々の目標を達成できるようなリハビリテーションプログラムを提供したいと考えています。小さくても一つひとつ目標が達成できることで、利用者様の人生の質の向上、生きがいづくりの一助になることを願いつつ、仕事に取り組んでいます。



介護・保育・理学・作業、どの分野にも　今、求められるのは専門性の深化!

支え合い 高め合う 同窓会であるために

各学科同窓会勉強会

「卒業後も勉強や語り合いの場がほしい」との声に、理学療法・作業療法両学科でスタートした同窓生勉強会。介護福祉学科、保育福祉学科にも広がり、毎年充実してきています。



介護福祉学科

■「化粧療法」

平成28年1月27日(水)

賀川 詔子さん(atelier n　整容介護コーディネーター)

生活の継続という観点で重要な化粧などの整容について、利用者様自らが化粧をすることで笑顔と自信を取り戻し、ADLやQOLの向上に繋がることを、実例を通じて学ぶ機会となりました。また実演では、香りの良いハンドクリームを塗ったり、チークを入れたりする一人一分足らずのわずかな時間で、その場に癒しと笑顔が広がることを体験し、介護現場でも気軽に実施可能であることを教えていただきました。

記／松田 圭司(介護福祉学科 主任)

■「学習療法」

平成27年6月17日(水)　24名

吉田 美和さん(介護福祉学科4期生／特養 絹島荘)

介護現場で学習療法を実践してきた6年間の取り組みについて、様々なエピソードを交えながら講演していただきました。学習療法は、行うことそのものが目的ではなく、学ぶことが利用者様の生活にどのように影響し、効果が波及していくかという視点が大切だとのこと。学習を通じて「できる」喜びや達成感を感じ、自信を取り戻すことがQOLの向上に繋がることを実践から語ってくださいました。

記／松田 圭司(介護福祉学科 主任)

保育福祉学科

■「第1回勉強会」

内容：近況報告、今年度の勉強会について、連絡網等確認

平成27年5月23日(土)　14名

■「社会福祉士国家試験受験対策講座」

①平成27年10月10日(土)　杉本　2名
②平成27年10月17日(土)　杉本　2名
③平成27年11月6日(金)　杉本　2名
④平成27年11月20日(金)　杉本　4名
⑤平成27年12月4日(金)　長尾　2名
⑥平成27年12月19日(土)　鄭　1名
⑦平成28年1月15日(金)　小谷　4名

理学療法学科

■「研究方法論の知識を臨床に活かす」

平成27年9月29日(火)　30名

出口 憲一先生(徳島大学病院リハビリテーション部)

■「PNF～筋力と安定性の基礎～」

平成28年1月18日(月)　30名

勝浪 省三先生(PNFAインストラクター)

理学療法士の勝浪省三先生によるPNFの勉強会には、1～13期生まで多期にわたり30名もの同窓生が参加しました。中には初対面の方もいて、適度な緊張感を感じながらいい学びの時間になりました。

私は、理学療法学科1期生として卒業し、現在は同科の教員として勤務しています。卒業して10年以上経ち、学生時代が遠い昔のような気がしていましたが、同窓会勉強会に参加したことで、育てていただいた学校、ご指導いただいた先生方、ともに頑張り成長した多くの仲間のことを改めて思い出し、熱い気持ちになりました。



年に数回の勉強会ですが、同窓会を通して繋がりを深めていけるよう、今後も様々な提案をしたいと思います。

記／竹内 大介(理学療法学科 教員)

作業療法学科

■「肩の治療について」

平成27年5月29日(金)　3名

佐藤 求(作業療法学科12期生／デイセンター一心太助)

■「がんリハについて」

平成27年7月29日(火)　15名

多田 薫(作業療法学科9期生／兼松病院)

■「感覚について」

平成27年7月28日(火)　25名

三宅 輝美(作業療法学科13期生／橋本病院)

■「時期別CVAアプローチについて」

平成27年11月13日(金)　5名

森本 洸平(作業療法学科12期生／天満病院)

■「高次脳機能障害について(症状、就労、運転支援など)」

平成27年12月18日(金)　15名

大前 博司(作業療法学科9期生／兼松病院)

■「上肢ROM訓練について」

平成27年12月18日(金)　30名(うち学生27人)

森本 洸平(作業療法学科12期生／天満病院)

同窓生から在校生へ

臨床実習に向けた特別講義

臨床実習に臨む母校の在校生に向けて、同窓生有志が特別講義を提供しました。経験を踏まえた講義が、実習の現場で頑張りを支えてくれますように。

理学療法学科

第1回「ロボットリハビリテーションについて」
開催日：平成27年4月17日(金)
講　師：横瀬 崇光(理学療法学科6期生／徳島病院)

第2回「大腿骨頸部骨折の理学療法」
開催日：平成27年4月20日(月)
講　師：吉田 誠(理学療法学科6期生／行岡病院)

作業療法学科

第1回「通所介護での作業療法士の役割」
開催日：平成27年4月11日(土)
講　師：佐藤 求(作業療法学科12期生／デイセンター一心太助)

第2回「訪問作業療法」
開催日：平成27年4月22日(水)
講　師：林 咲恵(作業療法学科9期生／訪問看護ステーションマリル)

追悼

徳島健祥会福祉専門学校 前校長 齋藤史郎先生



本校の前校長であり、医療法人青嵐会（健祥会グループ）理事長である齋藤史郎先生が、2016年2月19日、84歳で永眠されました。先生は徳島大学病院長、徳島大学医学部長、徳島大学学長を務められたのち、本校校長に就任。2003年４月から2014年3月までの11年間、医学者・教育者としての豊かなご経験と高いご見識のもと、本校の教育レベルの向上に多大な貢献をくださいました。国立大学の学長を経験された方が専門学校の校長職に就いてくださるというのは、異例中の異例であり、本校にとってこれほどの栄誉はありませんでしたし、同窓生の皆様方にとっても真摯で慈愛に溢れた校長のもとでの学びは得難い経験であったことと思います。そのご功績とご人格に深い感謝と敬意を捧げ、こころよりご冥福をお祈りいたします。

INFORMATION

NEW FACE | 新教員紹介

すばらしい人材を迎え、卒後教育もさらに充実を！

くじけない気持ち、挑戦し続ける心



渡邉 剛 先生
介護福祉学科
教員

本校を卒業後、健祥会グループに就職して 14 年。特別養護老人ホーム、老人保健施設、居宅介護支援事業所を経験し、福祉に対する様々な知識、技術を習得するとともに、多くの人との出会いにより、人間力を高めてくることができました。現場にて社会福祉士を取得後、2015 年度より介護福祉学科の教員を務めさせていただいています。困難にくじけず挑戦し続けてきた現場での経験を生かし、高齢化社会のニーズに応える介護福祉士の卵たちに、福祉とは何かを教授しています。とはいえ、教員としてはまだまだ未熟。在校生、そして卒業生の皆さんに、できる限り最新の学びを提供できるよう、自己研鑽し続けてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

地域で信頼されるリハビリテーション専門職の養成をめざして



岩佐 英志 先生
作業療法学科
主査

2015年１月より本校の教員として心新たに勤務しています。これからのわが国のあるべき姿の中、保健医療福祉の分野でリハビリテーション専門職が活躍できるよう、知識と技術と人間的成長につながる教育に向き合いたいと思います。作業療法士としての29年の経験を言葉に、そして行動に変えて、学校教育に反映できればと考えています。リハビリテーションは日進月歩であり、時代の流れとともに常にモデルチェンジがなされてきました。機能障害はもとより、活動と参加に関わることが維持期のリハビリテーションには効果的とされています。就労機会の不足や移動困難といった地方の課題と向き合い、活動や参加が支援できるような方法と連携のあり方を、養成教育は基より生涯教育に渡って提案していきたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

編集後記

平成27年度の同窓会総会は、職場の同窓生や同期生への声かけで輪が広まり、講演会、講習会ともに大盛況となり、昨年度よりも一層賑やかに開催されました。母校は創立20周年を迎え、介護福祉士、保育士、理学療法士、作業療法士として全国で働く同窓会会員は2,300名を超えました。
同窓会活動も徐々に深まり浸透し、同窓生が自らネットワークを構築する動きも活発になっています。今後もさらに一層皆さんの活動を支援し、より充実した同窓会活動にしていきたいと思います。
最後になりましたが、会報誌制作にあたりご指導、ご協力をいただきました皆様方に心より感謝申し上げます。

事務局より



社会福祉法人 健祥会
徳島健祥会福祉専門学校

徳島健祥会福祉専門学校の最新情報は
ウェブサイトよりご覧いただけます
www.kensyokai.ac.jp

徳島健祥会福祉専門学校 同窓会会報 | ウィル

発行元　徳島健祥会福祉専門学校同窓会　　発行日　2016 年 3 月 1 日
〒779-3105 徳島県徳島市国府町東高輪　TEL088-642-9666　info@kensyokai.ac.jp